

夜をこめて鳥のそらねは

止める

フキ返す

軽く止めて右払い

はかるともよは逢坂の

関はゆるぎ

中一之三

夜であることを隠して、鶏の鳴き声をまねてだましても  
あなたと私との間の逢坂の関は、決して開けて通ることは許しません。  
(百人一首六二番 清少納言)